

世界のブルーベリー市場(抜粋)

FreshPlaza 2025年5月23日

スペイン：不安定な供給が英国向けブルーベリー供給の課題 スペインのウエルバ県(アンダルシア州)は英国向けブルーベリーの主要産地であるが、今年は困難な状況となった。小売業者が販売促進のために期待している通常の出荷のピークはなかった。モロッコは出荷量が多いとしているが、英国市場では反映されていない。ただし、モロッコ産ブルーベリーの品質は依然として良好である。

スペインとポルトガルは、150年ぶりに最も雨の多い年明けを経験した。ある業者は、「今、興味深い状況の変化がある。シーズン前には誰も出荷量にコミットしようとしなかった。現在はブルーベリーを販売しており、東ヨーロッパからの供給に移行している」と述べた。

ポーランドは10日ほど前に非常に寒い天候に見舞われ、ルーマニアでも同様の状況が報告された。その結果、ブルーベリーの十分な供給を確保するためには、セルビア、ブルガリア、ジョージア、さらにはウクライナ等、他の国から調達する必要がある。ブルーベリーは量産型の商品となり、スナックとして広く消費されているため、その需要は年間を通じて安定している。

英国では、消費者の需要は存在するが、小売業者は販促を行うに当たって適切な価格を設定する必要がある。生産者は現在、低価格で大量に出荷する必要がない。

ポーランド：霜が降りてもブルーベリーの供給は安定 ブルーベリーの栽培面積はもはや速いペースでは拡大しなくなったが、既存の農園では品種の切り替えが盛んに行なわれている。オフシーズンの果実に対する需要が高まっているため、多くの出荷業者や輸出業者は年間を通じた供給を確保するため、ベリーの輸入を始めている。この入手可能性の高まりにより、消費者は年間を通じて常にベリー類を食べる習慣を容易に身につけるようになり、需要がさらに高まっている。

2024年シーズンの主な課題は、生育のサイクルが非常に早く急速に始まったことで、一部の農場では5月の降霜が開花ではなく幼果に影響を与えた。幼果は霜害に対してはるかに脆弱であるため、これは大きな損失につながった。ただし、降霜は局地的であり、生産者に与えた影響の程度は様々であった。ポーランド国内のほぼ全域に農園が広く分布しているおかげで、全体として見れば、ブルーベリーの総収穫量は2023年に比べてわずかに減少したに過ぎない。

Agronometrics のデータによると、ブルーベリーの輸出量は2023年の輸出量を17%上回り、約2万6千トンに達した。また、ウクライナからのブルーベリーの輸入、ひいてはポーランドからのウクライナ産果実の再輸出は、しばしば想像されているよりも大幅に少ないことも注目に値する。ポーランド国立植物衛生・種子検査局は、ウクライナとポーランドの国境を越えたブルーベリーは2023年には1,700トンであったが、2024年にはその数字が3,100トンに増加したと報告している。

近年植えられた株が本格的な生産に達することで、霜による潜在的な損失が打ち消されるため、2025年のブルーベリーの収穫量は現時点では2024年と同程度と予想されている。生鮮市場向けの他のベリー類の収穫量は、栽培面積の増加と、現在ではそれらの果実のほとんどが施設で栽培されているという事実により、昨年よりも多くなると予想される。

オランダ：モロッコ産ブルーベリーの価格と品質は堅調、数量は不足 オランダのある輸入業者は、「現在、モロッコ産ブルーベリーのシーズンは急速に終わりに近づいている。品質と価格の両方の観点から素晴らしいシーズンであったが、入荷量は期待したよりも少なかった。農場の収量は予想を大幅に下回った。一方、消費者の需要は非常に強い。荷動きは早く、滞留や余剰はなかった。市場全体が生鮮販売のみに焦点を当てており、それが最終的に消費者に利益をもたらした」と説明した。

「対照的に、スペイン産のブルーベリーシーズンは勢いを得ることができず、既にシーズンがかなり進んでいるため、今から勢いを増す可能性は低い。スペインの生産者にとってこれは大変残念なことである。」

「今後、第24週(6月上中旬)頃にセルビアが収穫を開始すると予想されている。収穫が始まると、7～10日以内にかなりの量が出荷されるはずである。セルビア産の大部分を占めるデューク品種は、急速に出荷量を増やすだろう。その約3週間後には、ルーマニア、ドイツ、オランダ、さらにポーランドからも慎重に、ブルーベリーが市場に入荷し始める。第25週(6月中旬)から第32/33週(8月前半)までは、より大きなパックサイズと販促活動に焦点を当てるのに理想的な時期である。消費者には高品質のブルーベリーを味わうチャンスがある」とこのベリー業者は付け加えた。

ドイツ：冬の旺盛な需要が春の供給へスムーズに移行 ある卸売業者は、ブルーベリーの需要が冬の間ずっと好調だったと述べている。「ペルー産かチリ産かにかかわらず、海外製品の品質も納得のいくもので、安定していた。2月末にモロッコ産のシーズンが始まり、3月中旬からはスペイン産が始まったが、この時も海外産の余剰があまりなかったため、今年はかなり円滑な産地の移行となった。」

ドイツとオランダの産地からの最初の入荷は、6月中旬から下旬に予定されている。「しかし、自由市場、つまり卸売市場で入手できるドイツ産ブルーベリーは全般的に少ないと言わざるを得ない。」

北米：シーズン序盤は供給が逼迫し堅調な需要 ブルーベリーの出荷量は南東部で増加している。フロリダ州では、ハリケーン・ミルトンやその他の悪天候により収穫量が約30～50%減少し、その限られた作物の出荷を終了しつつある。

ハリケーン・ヘレンと受粉の問題も、ジョージア州産ブルーベリーの収穫の前半に影響を与えた。推定によると、シーズン前半には収穫量が30～40%減少しており、また収穫の進捗も遅れている。しかし、最近の雨が助けとなっており、収穫シーズンの残りの期間は従来に近い量になると予想されている。「ノースカロライナ州では来週収穫が始まり、平均以上ないしはかなり多い収穫量が予想されている。」

メキシコでは出荷が終了しつつあり、そのため出荷量は限られている。さらに、カリフォルニア州のブルーベリーシーズンは約2週間前に始まり、今後3週間のうちに出荷量のピークに達すると予測されているが、当初の予想よりわずかに遅れている。供給量が限られる中で需要が旺盛なため、価格は通常よりも高くなっている。

今後は、ニュージャージー州(6月15日)、ミシガン州(7月第1週)、ブリティッシュコロンビア州(カナダ)を含む太平洋岸北西部(6月末から7月上旬)等、他の地域でも間もなく出荷が開始される。ペルーからの輸入は8月中旬に始まると見られる。

南アフリカ：生産者は世界的な競争に注目 ジンバブエのブルーベリーの収穫は勢いを増している。南アフリカの業界は、南アフリカから2万5千トンが輸出された昨シーズンと比較して大きな変化を見込んでいない。昨年は、7月の厳しい霜害により約2千トンが失われた。6月中旬までに、リンポポ州の収穫が本格化する。

業界は新シーズンが近づいても楽観的だが、ある内部関係者はペルーから目が離せないことを彼らは認識していると言う。すなわち、この南米の国では大量の収穫が予想されており、南アフリカの輸出業者が自分達の果実の良い価格を確保するためには「非常に鋭く戦略的なマーケティング」が必要になる。

確立されたブルーベリーブランドは、主にヨーロッパと英国の小売業者に焦点を当てているが、新しい事業者はジンバブエ産と南アフリカ産のブルーベリーを中東と極東に供給している。極東では、ヨーロッパよりもはるかに大きなサイズのベリーの需要が増加しており、特にチューブ包装の場合に当てはまる。

南アフリカ市場では現在ジンバブエ産ベリーを消費しており、これまでのところ近年に比べて量が多い。価格は2023年よりも下がっており、卸売市場で約9.80～10.80ユーロ/kgで取引されている。

執筆者：ステファン・ヤンセン・ファン・ニューウェンハイゼン